

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ハルビと祐介は靴をはき分けながら、持株とモテとの関連性というテーマであらでもなごりながらと話し合っていた。

「さうばあ、持株が強いとモテるのかな」

「ハルビが真剣な顔で言う。

5 「まあな。俺はその話聞いてたことないけど、俺持らい強かったら強いのかもね」

「モテるからと入る奴ってさ、やっぱりモテたからって強者があると思ってるんだよ。偏見かもしれないけれど、モテたくて、持株始めるってないよな」

「なにそれ。だよな。俺」

10 突然、祐介に振り回されて、歩はどきどきした。自分を会席の列の中に入れてくれていたとは思わなかったのだ。

「……さう、だね。俺、あんまりさういふことを考えたりはしてない」

「だよなあ」

15 「お前、マジで来たのかよ」

親の大声に視線を向け、歩は凍りついた。そこにいたのは、中学時代のハレー部の部長だった。自分を「的」にして、スパイクをぶっ刺さることを「練習」だと回った相手だった。もう半世紀も経っていないのに、彼はまた胸に、今更け散りさせた思いをこぼらうとする。必死に笑って、全てを冗談にしてやっていたあの頃の自分が鮮明に思い出された。先輩に背を向けて、息を殺す。先輩が立ち去ると、

20 「2」力が抜けた。

よかったです。

「さう思った次の瞬間、近づいてきた持株、部屋中に居る中で」お前いじめられてたんだって」と言った。

25 「さあさの奴と節田一様だったんだな。俺、あいつと初騎乗した。なんか、すげえいじめたこと後悔してさう言っていた。思わなかったって伝えてくれよ」

「……お前、何言ってる」

「……胸のある低い声で祐介が言う。

「何かって、伝えてくれって言われたから伝えてるだけだよ」

「さうばあ、親に悪びれた様子はないな」

「うたたく、なんなんだよ、お前、さういふと来い」

5 祐介は強引に親の顔を引き、廊下に連れ出す。親はその様子を見ていたが、前にハルビが

10 「お前、親だ、持株やろか」

「お前、親だ、持株やろか」

「お前、親だ、持株やろか」

15 「お前、親だ、持株やろか」

20 「お前、親だ、持株やろか」

25 「お前、親だ、持株やろか」

30 「お前、親だ、持株やろか」

35 「お前、親だ、持株やろか」

40 「お前、親だ、持株やろか」

45 「お前、親だ、持株やろか」

50 「お前、親だ、持株やろか」

55 「お前、親だ、持株やろか」

60 「お前、親だ、持株やろか」

65 「お前、親だ、持株やろか」

70 「お前、親だ、持株やろか」

75 「お前、親だ、持株やろか」

80 「お前、親だ、持株やろか」

85 「お前、親だ、持株やろか」

90 「お前、親だ、持株やろか」

95 「お前、親だ、持株やろか」

100 「お前、親だ、持株やろか」

6年

国語 A

第1回志望校判定サピックスオープン (二〇一八年四月十五日実施)

(時間……35分)

| |
|-----|
| 名 前 |
|-----|

- 注 意
- 1 名前や番号などは解答用紙と問題用紙の両方に書きなさい。
 - 2 指示があるまで問題用紙を開かないようにしなさい。
 - 3 問題は「ページ」から「ページ」まであります。
 - 4 「始め」という合図で始め、答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
 - 5 解答はすべて解答らんにおさまるように、こく、はっきりと書きなさい。
 - 6 一行のらんに二行以上書いたり、解答らんの行数を増やしたりしてはいけません。
 - 7 文字はていねいに書きなさい。
 - 8 用があるときは静かに手をあげなさい。
 - 9 字数制限のある問題では、句読点などの符号もすべて字数に含めて考えなさい。
 - 10 「やめ」という合図で、すぐに鉛筆を止めます。

解答と解説

国語 A

解答

- 1 問一 (1) 輪 (2) 面白 (3) 腹痛 (4) ひとけ (5) ごしよう
問二 1...ウ 2...エ 3...オ 4...ア 5...イ
問三 a...ウ b...イ c...エ 問四 ア 問五 ア 問六 エ 問七 ウ
問八 イ 問九 エ 問十 ウ
2 問一 (1) 構 (2) 駅員 (3) 応 (4) 負担 (5) 寄
問二 a...不利 b...複雑 c...相對 問三 A...イ B...ア C...ウ
問四 ウ 問五 他者と...自己 問六 イ 問七 エ 問八 イ 問九 エ
問十 相手の期待を裏切らない

配点 150点満点

- 1 問一～問四 3点×14, 問五～問十 6点×6
2 問一～問三 3点×12, 問四～問八 6点×6

解説

1 物語文の読解 (小山田桐子「将棋ボイス」)

いじめられていた過去を乗り越えることができずに苦しむ歩の姿を描いた物語文です。過去にとらわれる歩と、過去を乗り越えるものであり、気にする必要はないと考える梶の考え方の違いに注意しながら読み進めましょう。

問五 一線①の「険のある」という表現に注目すると、梶に対して祐介がきつい口調で応じていることがわかります。「みんなの前で、いじめられてたとか言うもんじゃ無い」(2ページ21～22行目)という注意をされたうえ、「謝るなら、校舎裏で」と指示されたという梶の言葉から考えると、過去にいじめられていたという話を祐介が危惧していることがわかります。そういったことを考えようとする歩の配慮のなさに対して祐介は憤っているのです。

問六 「悪びれた様子はない」という表現から、梶が自分の行為を反省することなく、気にかけてもない様子であることがわかります。「別に過去のことだから、いいって思ってる」(2ページ30行目)、「過去を否定したってしょうがない」(2ページ31行目)とあるように、梶は過去にとらわれる必要などないと考えています。ですから、過去のできごとを気にする

歩の気持ちや、問五で確認した祐介の気持ちについて考えもしていないのです。

問七 一線③の直前で「ただ昔のように」とあるように、歩はかつていじめられていたときにも「必死に笑って、全てを冗談にしようとし」(1ページ19行目)しました。自分がおかれたつらい状況を「冗談」であると思込むことで、いじめられている苦しみをごまかし、耐えていたのだと考えられます。今回の「薄ら笑い」も同様の笑いであることを考えると、その様子を羨したウが正解となります。

問八 一線④の直前を確認すると、「めんどくせえな、お前」という言葉を口走ってしまったことが顔をしかめたきっかけであることがわかります。「もっと、自信持って乗り越えようよ」(2ページ33行目)という言葉からもわかるように、梶は、歩が過去と向きあい乗り越えることを期待し、励まそうとしています。しかし、その意図に反して歩の考え方や性格を否定するような言葉を口にしてしまったため、本心を伝えられないもどかしさを感じているのです。

問九 「苦手だけれど、憎めない」とあることから、「苦手」な理由と、「憎めない」理由をそれぞれ確認しましょう。問六で確かめたように、梶は過去を気にする必要はないという自分の考えに基づいて行動しており、歩の気持ち

※は1問として採点

は何をぞ、という、あのまとも時代の経験を好奇心で、抑鬱がかるからである。幼いころには、知らない、というものがすこし心理的に負担に感じたりはしたが、十代のなかにはなると、知らない、というものが弱さか、という気持ちまで湧いてくる。ほんとは知らないだけなのに、知るといって笑われるのではないかと、不安がある。だから、知らないのに、知っていると見せようとする。要するに好奇心にフタをしようとするのだ。

好奇心にブレーキをかけるのは、けっして賢明なことではないのだ。だが、こうした好奇心は、まだよい。むしろ、知る努力をすれば、情報の量は増える。時代とおなじように、くたぐたえてゆくのだ。とるが、「知らない」「ことごとく」とを言えないために、ほんとはあえてゆくほどの情報はかかれない。むしろ、「聞く」は一時の恥。聞かぬは一生の恥」というコトワザがある。「知らない」「ことごとく」を口にするのは、恥をかきたくないから、知らないふりをする。知らないふりに知っていると見せようとするのは、一生知らぬままに生きていくと知ったかぶりをするよりも、一生の恥に知ったかぶりをした方がよい。

好奇心にブレーキをかけるのは、けっして賢明なことではないのだ。だが、こうした好奇心は、まだよい。むしろ、知る努力をすれば、情報の量は増える。時代とおなじように、くたぐたえてゆくのだ。とるが、「知らない」「ことごとく」とを言えないために、ほんとはあえてゆくほどの情報はかかれない。むしろ、「聞く」は一時の恥。聞かぬは一生の恥」というコトワザがある。「知らない」「ことごとく」を口にするのは、恥をかきたくないから、知らないふりをする。知らないふりに知っていると見せようとするのは、一生知らぬままに生きていくと知ったかぶりをするよりも、一生の恥に知ったかぶりをした方がよい。

好奇心にブレーキをかけるのは、けっして賢明なことではないのだ。だが、こうした好奇心は、まだよい。むしろ、知る努力をすれば、情報の量は増える。時代とおなじように、くたぐたえてゆくのだ。とるが、「知らない」「ことごとく」とを言えないために、ほんとはあえてゆくほどの情報はかかれない。むしろ、「聞く」は一時の恥。聞かぬは一生の恥」というコトワザがある。「知らない」「ことごとく」を口にするのは、恥をかきたくないから、知らないふりをする。知らないふりに知っていると見せようとするのは、一生知らぬままに生きていくと知ったかぶりをするよりも、一生の恥に知ったかぶりをした方がよい。

10 知らないことを、すなわち知らない、という、知る努力をすれば、情報の量は増える。時代とおなじように、くたぐたえてゆくのだ。とるが、「知らない」「ことごとく」とを言えないために、ほんとはあえてゆくほどの情報はかかれない。むしろ、「聞く」は一時の恥。聞かぬは一生の恥」というコトワザがある。「知らない」「ことごとく」を口にするのは、恥をかきたくないから、知らないふりをする。知らないふりに知っていると見せようとするのは、一生知らぬままに生きていくと知ったかぶりをするよりも、一生の恥に知ったかぶりをした方がよい。

15 好奇心にブレーキをかけるのは、けっして賢明なことではないのだ。だが、こうした好奇心は、まだよい。むしろ、知る努力をすれば、情報の量は増える。時代とおなじように、くたぐたえてゆくのだ。とるが、「知らない」「ことごとく」とを言えないために、ほんとはあえてゆくほどの情報はかかれない。むしろ、「聞く」は一時の恥。聞かぬは一生の恥」というコトワザがある。「知らない」「ことごとく」を口にするのは、恥をかきたくないから、知らないふりをする。知らないふりに知っていると見せようとするのは、一生知らぬままに生きていくと知ったかぶりをするよりも、一生の恥に知ったかぶりをした方がよい。

20 好奇心にブレーキをかけるのは、けっして賢明なことではないのだ。だが、こうした好奇心は、まだよい。むしろ、知る努力をすれば、情報の量は増える。時代とおなじように、くたぐたえてゆくのだ。とるが、「知らない」「ことごとく」とを言えないために、ほんとはあえてゆくほどの情報はかかれない。むしろ、「聞く」は一時の恥。聞かぬは一生の恥」というコトワザがある。「知らない」「ことごとく」を口にするのは、恥をかきたくないから、知らないふりをする。知らないふりに知っていると見せようとするのは、一生知らぬままに生きていくと知ったかぶりをするよりも、一生の恥に知ったかぶりをした方がよい。

25 好奇心にブレーキをかけるのは、けっして賢明なことではないのだ。だが、こうした好奇心は、まだよい。むしろ、知る努力をすれば、情報の量は増える。時代とおなじように、くたぐたえてゆくのだ。とるが、「知らない」「ことごとく」とを言えないために、ほんとはあえてゆくほどの情報はかかれない。むしろ、「聞く」は一時の恥。聞かぬは一生の恥」というコトワザがある。「知らない」「ことごとく」を口にするのは、恥をかきたくないから、知らないふりをする。知らないふりに知っていると見せようとするのは、一生知らぬままに生きていくと知ったかぶりをするよりも、一生の恥に知ったかぶりをした方がよい。

国語B 解答と解説

解答

- ① 問一 認知症になってしまったおばあちゃんの世話で家族が辛い思いをしているというのに、それに気づきもせずコタツであたたまっているおばあちゃんのことを許せなかったから。
- 問二 元気に家族のために働いていた、おばあちゃんの幸せそうな様子を思い出させるとともに、おばあちゃんからの愛情を感じさせるもの。
- 問三 「おばあちゃん」という呼び方と真なり驚くとともに、「お母さん」という呼び方と比べても田舎くさいと感じていたが、お母さんがおばあちゃんを慕う気持ちに気づかされ、「お母ちゃん」という呼び方に親しみを抱いている。
- 問四 イ
- 問五 コタツで寝ているお母さんを、ひいおばあちゃんだと勘違いして歌う子守歌の聲に、お母さんが若い頃おばあちゃんから注がれていた愛情が重なって感じられたということ。
- ② 問一 人間の頭脳は、ほとんど無限の容量を持っているうえ、青年期は人生のなかでもっとも精神活動のしなやかな時期なのだから、積極的に情報を蓄積すべきであり、好ましいものだと考えている。
- 問二 学校教育で身につけた知識がすべてだと思ひこみ、知識の吸収をやめてしまうことは、精神の成長が停止してしまうことにつながるが、自我の確立と共に知らないことを恥じる気持ちがあふまれ、好奇心をおさえこんでしまうことのほうは、知識の吸収が不十分になる程度にすぎないから。
- 問三 ウ
- 問四 現代社会は人間が情報蓄積を続けてゆくのに必要なあらゆる方法がととのっており、学校を卒業した後も継続的に外界の情報を取り入れ、自らを豊かにする機会に恵まれているはずだから。
- 問五 A. 電話で大学と間接的なコミュニケーションが発達した今日では、(30年) B. 顔を合はせずとも、直接的なコミュニケーションの意義が忘れられ、(29年)

配点 150点満点 各問は1問として採点

- ① 問一・問二・問五 15点×3、問三24点、問四6点
- ② 問一・問四 15点×2、問二24点、問三6点、問五15点

解説

① 物語文の読解 (重松清「かあちゃん」講談社)

問一 まず、「ほんとうに言いたいのは、コタツのことじゃない。おばあちゃんのこと」(1ページ12行目)とあるように、「わたし」はおばあちゃんに反感を抱いていることを読みとりましょう。1ページ14行目からの段落にあるように、おばあちゃんは認知症のため、お母さんにケガをさせたことにも気づかず、コタツでのんびりとしているのです。このような状況で「わたし」はおばあちゃんに対して「腹を立てている」(1ページ16行目)し、「うんざり」(1ページ17行目)もしているのです。「わたし」にとって「コタツ」はお

ばあちゃんへの反感を助長するものなのです。

問二 「現在の」と条件がついていることに注意して、お母さんにとっての「コタツ」とは何かを考えます。2ページ7行目からお母さんのコタツにまつわる思い出が語られています。家族のために働きづめだったおばあちゃんが、① 家事に区切りをつけて「コタツに入ってくる瞬間が、なによりもうれしかった」、② 「コタツに入って一息つくときが、いちばん幸せそうだった」(2ページ20～21行目・3ページ10～11行目)、とお母さんは振り返っています。

問三 「おばあちゃん」という呼び方との比較……線③直後に、いつもと異なる呼び方に、

に配慮することができていません。また、歩に謝罪をしたときにも、自分の意見を一方的に「言うだけ言っ」(3ページ9行目)、その場を立ち去ってしまいます。このように相手の立場にまで思いがけない点を、歩が「苦手」にしていると考えられます。しかし、その後の「歩の様子をちらりちらりと気にしている」(3ページ14～15行目)様子からは、歩のことを気にかけていることがわかります。歩は、梶が自分の意見を押しつけるだけの横暴な人間ではなく、優しさを持っていることも理解できるため、憎みきることもできずにいるのです。

問十 傷ついた歩に対して、将棋部のメンバーはそれぞれの方法で気をつけています。そのことを歩は「優しい」と感じています。一方で、自分の自信のなさや無力さが心配をかける原因であると理解しながらも、歩自身それらの克服方法がわかっていないため、優しいはずのみんなの言葉を重荷にも感じているのです。

② 論説文の読解 (櫻本博明「やさしさ」過剰社会一人を傷つけてはいけないのか」PHP研究所)

自己主張という行為が日本の文化に馴染まない理由についての論説文です。欧米の文化を「自己中心の文化」、日本の文化を「間柄の文化」と名付けて対比させようとして、「謝罪」という行為を具体例にあげながら、それぞれの文化の特徴を述べています。また、「間柄の文化」において自己主張が敬遠されることが、相手の立場に配慮した結果であり、「やさしさ」と呼べるものであることを説明しています。

問四 「自己中心の文化」についてまとめられた箇所を確認しましょう。6ページ6～8行目で、「自己中心の文化」の中では自己主張する内容が、自分自身がどうしたいかを判断基準に決定されることが述べられています。また、8ページ17～18行目では、「相手に影響を受けるのは独立的自己をちゃんと生きていないことになり、未熟で情けないということになる」と述べられています。つまり、「自己中心の文化」においては、相手の考えに左右されない自分の

意思を「判断基準」として確立する必要がある、その基準を持ってない人間は「未熟で情けない」と評価されるのです。

問五 問四で確認した「自己中心の文化」と対比する形で、「間柄の文化」では、「自分自身がどうしたいか」ではなく、「相手や周りの人の気持ちや立場を配慮して判断する」と説明しています(6ページ9行目～7ページ3行目)。その内容を解答の条件にあてはまる字数でまとめた箇所をさがしましょう。また、「を生きる文化」ということばにつながる箇所をさがす必要があるという問題条件も手がかりとなります。

問六 筆者は、「間柄の文化」において謝罪が行われるときには「自己中心の文化にはみられない二つの心理が働いている」(7ページ15行目)と述べています。その内容が、「ひとつは」(7ページ16行目)、「もうひとつは」(7ページ19行目)のあとにそれぞれ示されていることに注目すると、「相手の気持ちに少しでも救いを与えたいという心理」と、「自己正当化にこだわるのはみっともないし、大人げないと感じる心理」の二つであることが確認できます。したがって、両方をまとめたイが正解となります。

問七 線④に含まれる「自分の視点」の意味を確認しましょう。「間柄の文化では、自分の視点を絶対化しない」(7ページ23行目)、「自分の視点からの自己主張にこだわることはできなくなる」(7ページ24行目)とあることから、「自分の視点」が「自分の価値判断」であることがわかります。つまり、自分の価値判断だけを唯一の基準とする考え方を「凝り固ま」っていると表現しているのです。

問十 ①を含む一文を確認しましょう。すると、②にあてはまることばが「相手に対するやさしさ」を表したものであることがわかります。「やさしさ」ということばを手がかりに字数にあてはまる内容をさがすと、8ページ1行目に「相手の期待を裏切らないようにしようとするやさしさ」という箇所があります。

「びっくりして」いる様子が説明されています。「お母さん」という呼び方との比較…「田舎クサイじゃん」(3ページ2行目)と違和感を抱いていましたが、「お母ちゃん」のほうが距離が近い」と、お母さんのおばあちゃんを慕う気持ちを理解し、親しみを感じるようになっていきます。

問四 3ページ16行目からの段落に注意しましょう。お母さんがおばあちゃんをコタツで待っていたという話を聞き、今度は「わたし」自身がコタツでお母さんを待っている様子を想像しています。そのうえで、「そして」(3ページ23行目)と続けて、おばあちゃんが子どもに戻っていることと、お母さんを自分のお母さん(=ひいおばあちゃんのこと)と思い込んでいることが述べられています。以上の流れと、子どもの頃のおばあちゃんといひおばあちゃんの関係について推測が述べられている部分(3ページ33行目～4ページ2行目)を参考に選択肢を検討しましょう。

問五 おばあちゃんば、お母さんをひいおばあちゃんだと思ひこんでいます。おばあちゃんのなすがままにしていたお母さんですが、おばあちゃんの子守歌をきっかけに涙を流しています。お母さんにとって、コタツはおばあちゃんの愛情の象徴でもあったこと(問二)と、——線⑤の「お母さんのお母さんに戻った」という表現とをあわせて考えると、幼い頃におばあちゃんが自分に愛情を注いでくれたことを思いだし、心を打たれて涙を流しているのだと考えられます。

② 説明文の読解(加藤秀俊「独学のすすめ」筑摩書房)

問一 直前の段落に注目して、筆者の考えを読みとりましょう。まず、(1)人間の脳はたくさん情報を蓄積する容量があると述べられています。また、そのうえで、(2)「人生のなかでもっとも精神活動のしなやかな青年期」にはまさに「何でも見てやろう」の心がまえが必要だと述べられています。(1)と(2)の内容が「だから」で結ばれていること、——線①「何でも見てやろう」(の精神)と、

「何でも見てやろう」の心がまえ(6ページ19行目)とが類似していることに注意して答えをまとめましょう。

問二 ——線②直前までの内容から、自我の確立とともに、恥ずかしさから、知らないことを知らないと言えず好奇心をおさえてしまっている状態を「知ったかぶり」と表現していることがわかります。また、——線③直後からは、「さらに困るのは」に続けて、「つまり」以下にまとめられているように、「知るべきことは、すべて、学校で知りつくしてしまった」と思いこんでいる人々のことをより深刻に問題視していることがわかります。このような思いこみにとらわれている人々は、「情報の吸収をびったりととめてしまう」ため、好奇心をおさえるだけの「知ったかぶり」よりも問題なのだと考えられます。

問三 「滑稽(こつぱい)(=おもしろみがある)だ」と述べていますが、問二でもふれたあまりに的外れな考え方に対する皮肉であることに注意しましょう。ア…「知ったかぶり」ではなく、「まちがった思いこみ」について述べた表現ですので誤りです。イ…ほんとうに「おもしろおかしく」感じているわけではありません。エ…豊かな知識を身につける姿勢を失ったから、精神の成長がとまるのです。この選択肢は原因と結果が反対になっています。

問四 「社会の高度化」「このかんがえ方」の内容を確認しましょう。「現代の社会には、人間が情報蓄積をつづけてゆくにあたって必要な、あらゆる便宜がととのっている」(6ページ1～2行目)と述べられています。筆者は「社会の高度化」と情報蓄積を結びつけて考えているのです。そして、「このかんがえ方」とは直前の「生涯をつうじた継続的な教育」についてのものです。継続的な教育によって自らを豊かにしていくことが大切だと述べられています。

問五 「ややもすれば～がちである」というかたちで、「～になりやすい」という意味で使われます。「直接的」「間接的」とが対になっていることに注目しましょう。

「それでは最後は国語になります。国語なんですけれどもAは若干やさしく、そしてBはやはり例年通り難しかったなという印象なんですけれども、Aの方からいきたいとおもいます。まず漢字や語句は中に織り込まれています。空欄補充もなかに織り込まれていますけれどもいずれも簡単でした。ですので、漢字、語句、文法問題ですね、特に品詞の識別問題出ますけれども難しくない、対義語に関してもこれは今のこの時点ではほぼほぼ取れなければいけないということで、知識や語句問題に関して点が安定したんじゃないかと思います。」

問題は選択肢なんですけれども、じゃ選択し問題、今回は男子校によく出がちな男の子の心情の揺れ動きというものについて、物語文のある場所を切り取って、過去にいじめを受けたことのある少年が将棋と出会って、高校生ですね。将棋と出会って周りの仲間たちに支えられながらおそらく成長していくんであろうという、いわゆる成長物語、そのなかのある一場面、まだ少年が自分の過去に縛られて、そして薄笑いを浮かべていた現実を直視しなかった自分の弱さと今後どう向き合っていくのかってところで終わっているわけです。」

ですので本格的にいわれる読解になるのが問5番の問題からなんですけれども、陰のある低い声でユウスケが言ったってこの脇役が言ったその時の様子から気持ちをあてる問題なんですけれども。まあ身体表現、言ったりとかセリフそのものですね、あとしたりしたこと、あと表情・口調、セリフそのもの等、そういったものを手掛かりにして気持ちを読み解く、いたってオーソドックスな形の設問になっています。で陰のある低い声でっていうことですから思いやっているとかが動揺を隠せないっていう、まずこの最後のところ、心情をあらゆる言葉から絞れるはずなんです。でそうすると最後のところですがよくイとウが消えると思います。で残ったものがアとエなんです。でアとエのところと何が違うのかということを見ていくと、過去を思い出して苦しんでいるっていうところと、さらに追い詰めるようなことを言っているっていうことなのか、それとも不用意に広がることを心配しているのかっていうことなんですけど、

そのあとのところ、んまあその前のところに部室中に聞こえる声でっていうところの表現があります。それからその後更に広がっていくことを恐れて、呼び出して別の場所で謝るよという指示をしたってことが出てきますので、ここは当然アになります。んでこういった問題を解くときに、今回は特にA問題時間がですねすぐ短いのに問題数多いんですね。35分という時間でしかも30問とかい問題を解いていくわけで、そうするともう1つの問題に読む時間を入れると本文読解を入れるとほんとに選択肢で迷っている時間はないんですね。そういうときにどういう風にはやく動作をして少しでも時間を節約するかってのは読む時間を焦ることはありません。読む時間を焦ってしまうと内容の理解が不十分なまま問題に突入してしまうこととなりますので、正答率が下がってしまいます。お子さんが自分が理解できる速度、ま心持当然テストですから急ぎ目に読んでいます。それが大事ですよ。時間を意識しながら読むというのは大事なんですけれども、焦って読んでしまうと内容が頭に入らなくなってしま、ですからよく国語の先生で速読とかかなめ読みとかいう方いらっしゃるんですけども、速読もかなめ読みも必要ありません。しっかり一読してある程度の内容が頭の中に入るようしっかり理解しながら読める速度で大丈夫です。そして問題処理の方急いでください。そのためにもこういった基本的な心情の選択肢問題の時はまず最後の心情語を比べて差異を見てみる。そうすると簡単な問題であればあるほどこの部分でプラスの表現とマイナスの表現真っ二つに分かれている場合が多いです。難易度が易しければ易しいほどここはすぐ二極化している場合が多いので、まあ半分に削れてしまう。そうするともう上は見する必要なく該当する残った二つを比較していけばいい、下から上へというこの基本動作を必ずおさえるようにしてください。

はい、そして問の6番ですね。悪びれた様子がないってのは、全然悪気がないってことで、自分が悪いことをしているってことに対して無自覚である、ま、どちらかというこれは無神経であるってことで相手の気持ちが想像できないタイプということになります。ここは読解からというよりは文脈からどのような人物像と判断するのってところで思いもしなかったっていうのが一番文脈にはあっています。このようにしてほしいと思って言ったんじゃないとか、わざとわかっていて意図的に言ってるわけじゃない単純に悪びれた様子もなくというこの一語から、全く意識していない、相手がまさかそんな風にとるとは思っていない悪気の何もない、どちらかという無神経な様子を読み取っていかなければいけません。

はい、そして問の7番です。薄ら笑いを浮かべる理由を説明したものってことで、自分がいじめられているときに薄ら笑いを浮かべる、しかもその後今現在高校生になった現在でも周囲が無神経さに、カジの無神経さに怒っているときに、やはり薄ら笑いを浮かべるしかない自分、これがすごく嫌だという風に言っているわけで、じゃ自分が自分にとってある意味追い詰められたりとか、もしくは自分の何か傷ついているときに、薄ら笑いを浮かべるという表情をしてしまう自分が嫌だ、この時は当然いじめられたら当たり前ですけども、正しく帰結する感情表現としては怒りであるべきなんです。むしろそこに逆の薄ら笑いということは、その状況に対してごまかしているってことがわかります。ですのでごまかすというのは現実逃避ということですので、それが当てはまるものをアイウエから選べばいいわけです。

はい、そして問の8番です。顔をしかめた理由は当然きっかけとなる出来事が重要です。なんに対して顔をしかめたのかというと、めんどくさいな〜という風に言った、そしてめんどくさいな〜といった後であわててそれをいやいやいやいやいやって感じて打ち消してるわけですよ。つまり悪気なく言ったんじゃない、これもまた梶の一貫したキャラクタ一像ですよ。悪気なく言ってるんじゃない、思わず口をついて出てしまった、いやそれは傷つける意味じゃなかったんだよということで、そこの流れがしっかり、きっかけとそれからその後の傍線部に例えば身体表現があってその直前直後の言葉、セリフってのはすごく、当たり前ですけども心情を読み解くときの最大のヒントになりますから、そこを見ていくと、それをまとめて書いたものっていうとイしかないってことになります。

はい、ここまでは難易度普通です。ま、ですから取れてほしいんですけどもいくつか勘違いで外してしまうこともあるかもしれないっていうくらいの正答率50%くらい、まっ難度ぶつうなんですけれども、

難しかったであろうと思われるのが問9問10です。このあたりになってくるとかなり正答率が落ちてくるんじゃないでしょうか。苦手だけど憎めないこのように感じるのはなぜかという間で、間違いやすいのはイとエだと思うんです。イとエでなぜ答えがエになるのかっていうとなんでしょ、あのその前のところのあのなんでしょあの一握に対してのなんでしょね、性格というかそういうものに対して一方的に僕がこの歩が伝えているところがイだとしたらそうするとこういうところもあるけれどもってところで、一応客観的に複眼的な視点を意図しているのはエなんです。で実際問題見ていただければわかると思うんですけど、他の選択肢を見ていくとこの複眼的な視点って書かれている中でイだけが単眼的な視点で書かれているんですよ。こういう視点で見ていくともうこれ明らかに多いものから選んでいくっていうのが選択肢の実は基本なんです。仲間外れから選ぶんじゃないって仲間外れは真っ先に消して似たような構造、組み立てになっているものから選んでいくのが、選択肢の問題の解くときのある意味テクニックなんですけれども、それから見てもエが答えであるし、それから自分の生き方を他人にまで押しつけようとする強引さっていうことに関してはこのこと自体ではなく、苦手っていうのを何に対して苦手と思っているのか、単純に自分の生き方を押し付けるから苦手じゃない、その後積極さとなるわけですよ。そこじゃないかもっと根本的な部分、無神経に人の傷に対して無神経であるっていう点であまりかわりは持ちたくないけれども、苦手だけれどもだけれど、相手の様子をチラチラと伺っているっていうそういう、これは相手を気遣っているという不器用な優しさを持っていることに対して憎めないといっているという、それぞれ苦手するのは何に対して苦手なのか、憎めないというのはこの部分に対して憎めないのか、それをきちんとそれぞれ書かれている選択肢を選ぶとエということになります。このように複雑な心情というんですけども苦手だけれど憎めないという相反する心情が同時に存在するときは簡単なんです。それぞれのうれしいけど悲しい、うれしい理由と悲しい理由、この場合だったら苦手な理由と憎めない理由、それぞれを別々に考えてそれを組み合わせているものを選ぶ方がいいということになります。

そして問の10番です。優しすぎて少し苦しかったっていうこれもすごく紛らわしかったんですけどもイとウで間違えたんじゃないでしょうか。そしてこのイに関しては自分が自信持てない自分に嫌気がさしていて苦しいのか、それとも申し訳なくて、周囲に申し訳なくて苦しいのか、優しさに対して言っている、これは優しすぎたことに対することに対して苦しいという風に言っています。感謝しているんだけど、優しさに対して感謝しているんだけど苦しいと読むのであれば、正しく言い換えているものってのはウの方になります。これは傍線部の構造からしてもイではなくウということになってしまいます。ここも非常に難度高かったので間違えたお子さん多かったんじゃないでしょうか。ですが四角1番難度としては全体に標準的な難度だったと思います。

はい、そして四角2番です。簡単なある意味欧米と日本を比較していつものSAPIXさんのテストにあるような、マンスリーテストにあるような常識をひっくり返すという問題では今回はなかった。非常に単純な二項対立の問題で、日本欧米の自己中心文化、自己を主張する文化に対して、日本人は周りに対して思いやりを持つ文化であるという、ある意味すごく単純な二項対立だという意味で読みやすさにかけて、まずは素材文自体の難度が非常に低かったということがあげられると思います。素材文自体の難度が低かったらじゃあ問題は簡単なのかということもそんなことはなくて、素材文の難度が低くても問題がその分難しければ難度は高くなってしまいます。さあ選択肢問題今回は難度がなつうだったので、素材文が易しくそして設問はふつうだった、標準的だったのでやや易しめだったということができています。はい、問の4番、自己中心の文化ってのは何かっていうことで、自己中心の文化における考え方ってなんだろうっていうことです。これは何かというともうなん回も繰り返し書かれているんですけども、時間がないうちで探っていくっていうのが非常につらかったと思います。自分がない主体性がないっていうことに対して欧米では未熟であるという風にとらえるっていう風に書かれている。それ言い換えたものとしては自分の意志を判断基準にすることができない人間っていうのは未熟だっていう言い換えとイコール

になるってことがちゃんとつかめたかどうか、時間のないうちでしっかりここが捉えられているかどうかっていうのがポイントです。そして時間のないうち非常に追い打ちをかけるかのように抜き出し問題、抜き出し問題というのはですね非常に時間がかかります。で時間かかるとき、これもやっぱり、早く選べるテクニックがあるんですけども、覚えてほしいんですが、1つはですね形です。もう何を聞いても形です。まず内容の検討をつけて探していけばいいわけですけども、この場合は“生きる文化”とありますから“を”という助詞の上につく言葉は体言なんです。ですから、あ、これ上には体言、名詞がくるんだなってことで名詞で終わっているものを探して1点、それから字数を数える時に、あのふさわしいかどうかの字数を数える時に必ず下から数えるということですね。上から数えてしまわないということ、なぜかという抜き出し問題の場合はいろんな修飾語がついていることが多いです。でその修飾語入れてしまうと、最後が中途半端な形になってあ、違うと思いがちなんですけれども、実はその修飾語外せば字数がぴったりってことがあるので、抜き出し問題の字数数える時は下から数えるよということ、形と下から数えるというこの2つの基本おさえておけば結構時間は短縮されたと思います。難度としてもこちらに関しては若干探していくかたではないかと思えます。ですからこういう時間がですね、35分しかない時に抜き出し問題を捨てるってのも1つの手段ではあります。はい、そして問の6番ですね。これ簡単でした。なぜ自分が悪いにも関わらず謝るのは、それはどのような理由からかっていうことなんです。これは相手に対して悪いという思いと2つ理由が説明されていましたね。もう1つは自分の主張するのが非常にみつともない、カッコ悪いことだという美意識があるってことが書かれていました。この2つがしっかり書かれているものを選べばいい。この場合は非常に簡単にイというのが選べたと思います。はい、そして問の7番です。自分の視点に凝り固まりがちってのは自分の視点ってのがなんなのかっていうことですね。どういうことですか凝り固まるとはということ、これ前後の文章で書かれていて、説明が書かれています。結局自分の視点ってのは自分が基準っていう風に書かれていましたよ。自分が基準だと考えてそして周囲の立場を見ようとしな、相手の立場に立つということをしないうことが書かれていたの、それが表現されているものってのはエだけでしたよ。そして問の8番です。これは言葉の問題です。読解の問題ではありません。これが優しさでなくなるといって、何であるというのか、優しさ以外の何物でもないという反語表現です。ということでこれは反語表現ということでわかればイということがわかんと思います。そして最後ですね。問の10番です。当てはまる言葉を本文中から11字丁度抜き出して答えなさい。これも抜き出し問題で若干ここで時間取られたかもしれませんが、先ほどの問5よりも比較的楽な問題でした。ということでこちらの方は取れたのではないかな、まあ正答率50%くらいじゃないかなという風に予測されます。ということでまあ今のこの点数ざっと計算してみますとだいたいいつものマンスリーとそんなに変わらないのじゃないかなという感触は受けました。だいたい75くらい前後じゃないかなという感触は受けています。

では問題のBですね。Bの方はですね今回は記述明らかに、ま、いつもなんですけれども難しくかつ部分点はいずれある程度もらえるんですけど15点のうち5点もらえるという形のお子さんが多かったんじゃないかと思えます。まず物語文、内容的にはお母さんのお母さんは、あのおばあちゃんはお母さんのお母さんなんだっていう視点が書かれているんですね。で最初はその認知症になったおばあさんが、自分の母親に苦勞ばかり掛けさせるので、そのことを恨んでいる孫娘がお母さんの話を聞くうちに、ちょっと違った目でおばあちゃんを眺めるようになる。あ、おばあちゃんもおかあさんのお母さんとして頑張ってきた人なんだ、そしてさらに言うならそのおばあちゃんの子供のころに戻ってておばあちゃんにもお母さんがいてそういうなんというか繋がっていく生活っていうんですね、人の人生がそうやって孫の代ってあの娘から更にその娘へつがれていく、そういう風につながっていく人の人生について思いをはせるというふうな内容の物語文となっていました。この問1番なんですけれども、私の気持ちを踏まえてなぜ炬燵を片付けると言ったか、それ腹立っているのはおばあちゃんに対してだっていう言葉があります。炬燵は八

つ当たりだっけ書いています。じゃあどうということかという、炬燵でぬくぬくとしているおばあちゃん憎たらしい、なんで憎たらしいのかっていうとお母さんがそのせいで首をけがしてしまった、むち打ちみたいになってしまった。というところからお母さんに苦勞ばかり掛けるという抽象化になります。この部分が上手に書けたかどうか、ということでこれはですね実をいうと四角1番の問題の中では一番易しめの問題なのでここでですね、半分以上とってないのとちょっと点数として伸びてこないことになってしまいます。ぜひここは半分以上取れているかどうかチェックしてみてください。で取れてない場合はこの後が期待できないんですね。

次の問の2番見てください。お母さんもコタツ大好きだから、現在のお母さんにとってコタツとはどのようなものですか。現在の、ついています。でお母さんが思い出すのはコタツのある風景だっていうんですね。自分が幸せだった子供のころ、母親との思い出を象徴するものである。っていうのがまずここは必ず1点かけるようにしておいてください。コタツというのは自分の昔を思い出させるそういう象徴のものだったんたってことですね。そしてもう1つは何かというじゃあその象徴を感じさせてなおかつ何を感じているのかっていうと一生懸命頑張っていたおばあちゃんと、家族のためにそして自分に向けられていた愛情、コタツに戻ってよこらしよって戻ってほっと一息ついた時の幸せな顔、そこから母親の愛情を受け取る場所であったということ、ここがしっかり書けている、このコタツが何を象徴しているのかっていうこれ実は見えづらいですけども象徴問題になっています。

はい、そして問の3番です。ねえ、お母ちゃんとありますが、『お母ちゃん』という呼び名について『わたし』の受け止め方はどのように変化したか、変化問題ってのは普通ですね。ものすごくこう長い時間で、こうこれがあるってこういう気持ちだったけど、こういう出来事があったってこういう風に変化した。っていうすごく長い大がかりなものなんですけど、これあつという間に変化してるんですね。何かと申すと、ま、最初は田舎くさいっていう『お母ちゃん』って呼んでたのっていう『お母さん』ではなくて、その呼び方が田舎くさい、なんかこう古びた呼び方だっけ思っていた、それがお母さんから、いやずつとそうお母ちゃんって呼んでたんだって聞くとお母ちゃんという呼び方がお母さんよりも距離が近く感じる、ということで非常にお母さんにとってはおばあちゃんがどのように甘えていた存在かわかるっていう風につながっていくんですね。ですからどのような受け止め方をしているかっていうと非常にお母さんよりも距離が近くて、そして子供にとっては甘える対象であった、ことが想起させるものであるってことがわかります。ただこれ模範解答の方見ていきますと、何と書かれているかという、お母ちゃんという呼び方に親しみを抱いているとまで書いていて、私自身が親しみを抱いているか、ってのはちょっと疑問に思います。私自身がというよりはお母ちゃんという呼び名の方がお母さんという呼び名よりも距離が近い、自分の母親がどういう風に甘えていたかが想像できるわかる言葉だなあって言う風に好意的に受け止めているわけです。最初は否定的な受け止め方だったのが、後に好意的な受け止め方になっている、ここ結構記述の幅、解答の幅が大きいと思います。期待して待っていてください。

はい、そしてその次ですね。問の4番の選択肢問題です。これは省略という表現技法の1つですけども・・・の後に続くものを補わせる問題ってのは、実は結構よく出ます。省略してあるときのヒントは何かって言う風に考えると、まあ文脈から判断する以外にないんですけども、ここは間違いないですよ。はい、で文脈から判断して、でこれは実は簡単なんですここは絶対に確実にとってください。じゃないともうBの方は点が伸びてなくなってしまいます。はい、そしてですね、厄介だったのが問の5番です。問の5番実を言いますとこれ解釈が可能なんですね。で、もしも国語の問題として成立させるためには解釈の幅のあるところは解釈を規定しなくてはいけないんです。どうということかという設問者が回答の幅はここまでですよ決まないと、解釈の幅が複数あるのって当たり前ですけど国語の問題として成立しないんですよ。くだいようですか。ですからここが選択肢文の選択肢問題であればこの解答で丸だった、なぜかというそれしか選びようがないっていう風に乗るので、ただ今回記述なんですね。で、お

ばあちゃんは今お母さんのお母さんに戻ったのだ、これはどうということですかって聞かれていて子守唄を歌うってのは当たり前ですけども子供が母親には歌いません。母親が子供に歌う、ということはおばあちゃんは最後に子守唄をうたっているわけですからこの一瞬母親に戻っているわけです。だからお母さんのお母さんに戻ったんだ、それがわかってお母さんが涙を流してるんです。あ、お母ちゃんだって思い出したんですね、それをSAPIXさんの解答は子守唄を子供としてうたっている、つまり自分の母親に対して歌っている、その中に昔のお母さんの面影が感じられたから泣いてるんだって風に解釈してますけど、いやこれ違うでしょって、ごめんない思いました。ここはですね本当に解釈の問題とってしまえばそれまでなんですけど、普通に読めば子供だったおばあちゃんが子供としてお母ちゃん風邪ひくよといいながら、布団を着せ掛けてそして座った時にはもう母親に戻っていてボンボンってやるわけです。ボンボンってやって子守歌を歌う、この時は母親になってるんですね。だから一瞬母親戻っているってことを考えたらこの解答は例であって解答の幅としては是非ともここは四角四面に採点、模範解答に沿って採点せずに解答の幅、解釈の幅というのをつけてほしいと思います。国語ができるお子さんであればあるほどここは一瞬自分のお母さんが子守唄を歌って昔の母親に、包容力のある母親に戻ったんだったことが書けていないと逆に丸ではないはずなので、この部分は是非とも採点の時に解釈の幅の部分も考えて、これも正解、これも正解っていう形の二つ正解を作っていたかかないとちょっと受験生がかわいそうかなと思う問題でした。

はい、そして四角2番にうつります。四角2番の何でも見てやろうの精神、このような精神を持つことについてどのように考えていますか。これめちゃくちゃ簡単でしたね。はい、これはできなければいけません。素直にその前後のところから答えが導ける問題です。で、難しかったのが問の2番です。まだよい。なぜこのように言えるのですか。まだよいというのが傍線部なので、まだよいということは何かと何かを比較してこちらの方がいいんだと言っているわけです。ですから比較しているものを明らかにしてそして比較してなぜAとBがBの方がいいと言っている理由まで書かなきゃいけない、つまりそこまで要求しているという意味では、これ実は結構難度が高い厄介な問題でした。書きづらかったと思います。はい、そして問3番です。選択肢問題ですね。むしろ滑稽だ、この表現から滑稽って言うことは面白おかしいって意味なんですけれども、これはもちろん人揶揄、からかいの表現であるっていういわゆる婉曲表現なんですね。ですからこの部分が文脈上取れていれば、ウというのが選べるんですけど、これちょっと大人のボキャブラリーというか語彙感覚が必要だという意味では、若干小学生には難しかったかもしれません。ただここも文脈から考えていくと筆者がどのようにこのことに対してとらえているのか、マイナス表現でとらえているということがわかれば機械的に選べる問題ではありません。

はい、そして問の4、問の5ですけれども、このラストの2問がこれまた難しかったです。非常に難度が高かった。まずですね筆者はなぜこのように言うのですか、明らかにはっきり書かれていません。ただ傍線部にこの考え方はとありますから、まずこの考え方を明らかにしましょう。この考え方ってのは人生を通じて教育という行動は継続されていかなければならないという考え方です。じゃこの考え方がなぜこのように言うのですかってことで、今のこの社会の高度化したごんちってことで、社会が高度化したってのはどういふことか。これを最初の方から出してきてください。どんな情報でも自由に手に入れることのできる便宜とチャンスがある、そういう社会においては当たり前ですけども、一生通じて生涯通じて学び続けるということが、重要であるためってことが書けていけば丸になります。ちょっと模範解答わかりなので、いまちょっと簡単に翻訳してみました。

はい、そして問の5番。これ何が難しかったかというかわいそうにおそらく多くの受験生はこの問題の意味がとれなかったんじゃないか、これは『ややもすれば』の言葉の文例を示しているだけで本文とは何の関係もございません。そこがわかっていけばなんということではなく解けたんですけど、ただそれがわかっていてもなおかつ直接的、間接的コミュニケーションってなんのこっちゃって思ったかもしれな

い、具体例が思いつかなかった方がいるかもしれない、現代社会においては間接的コミュニケーションってのは直接リアルで会わずに、LINE やらメールやら Gmail やらで会話する、チャット形式で会話する、SNS を使って会話する、それに対して昔は直接的なコミュニケーションであったというこの対比が頭に常識として入っていればともかく、それが入っていなければ、もとより『ややもすれば』の意味だと分かって問題も解けませんし、『ややもすれば』なんて言い方は『ともすれば』とも言えますけれども、非常に意味を言いづらい、あの言葉なんです。で『ややもすれば』って一体どういう意味なのって言ったら、そうなりがちって意味なんです。常にいつもそうなるよってということなんですけど、そういう意味の副詞なんですけれども、こういうことがあるといつもたいていこういう風になるんだよってという意味なんです。で、これ知らなかったとしても書きづらい、あ、ごめんなさい知らなかったとしてもじゃない、知っていたとしても書きづらいという意味でここ丸々15点落としたお子さん多かったと思います。ということで点数どれくらいになるのかなということでおそらくは50点前後じゃないかなというのが今回の予測です。まあ、うまくいけば55、失敗すれば50、まあ、どちらかっていうと私50くらいなのかなという風に考えています。はい以上が国語になりました。長くなりましたが是非ともみなさん今回のテストはあくまでもいつも申し上げているとおり、学習を円滑にするための指標としてお使いください。間違えた問題は単にこの問題が、特に国語の場合はですね、この問題が解けるようになっても意味がないので、どういう手順で正しい解法に至ったのかを、解法の道筋が再現性を持って自分の身につくように勉強して行って、学習しなければいけません。そこを間違えてしまうとどうしても国語伸びなくなってしまいます。ぜひ今後も学習頑張ってください。私どももこういう形でサポートしていきたいと思えます。